

経営比較分析表（平成28年度決算）

岐阜県 富加町

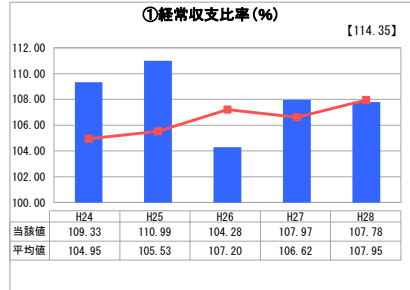
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	86.33	99.14	3,661	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,707	16.82	339.30
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,651	10.25	551.32

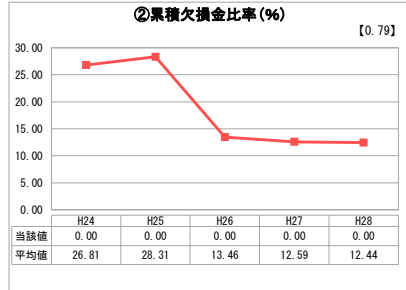
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

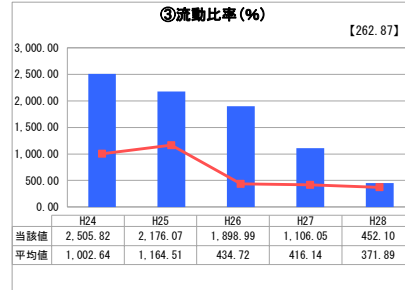
1. 経営の健全性・効率性



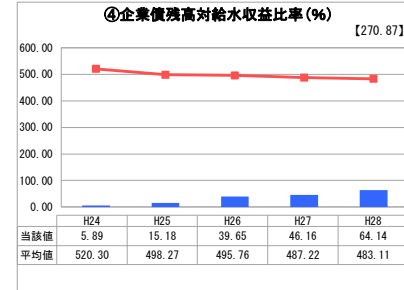
「経常損益」



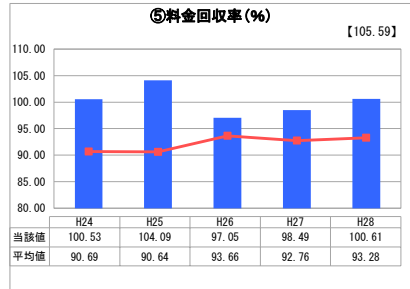
「累積欠損」



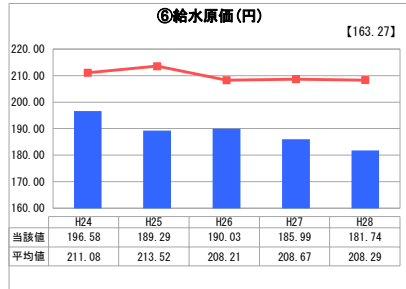
「支払能力」



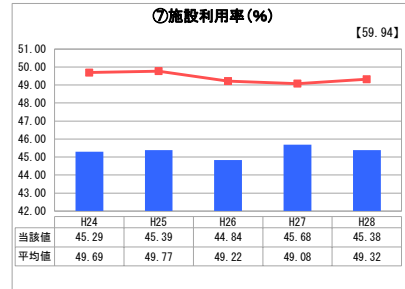
「債務残高」



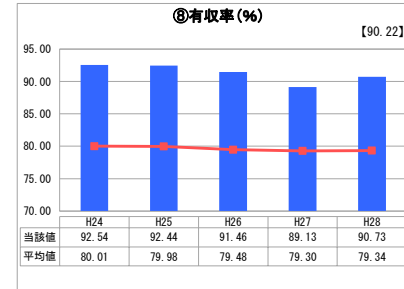
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

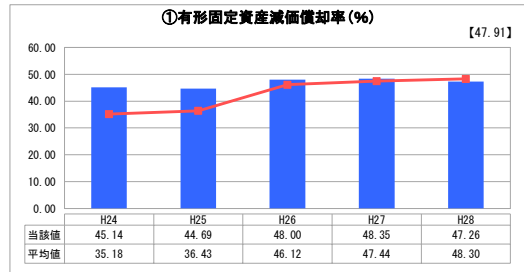
1. 経営の健全性・効率性について

企業債残高対給水収益比率が他類似団体より低く、企業債への依存が少なく良好な状態に見えるが、今後、管路の更新で企業債借入が増加する予定のため、注視していく必要がある。
 料金回収率が類似団体より高く、現在では良好だと言えるが、今後人口減少による給水収益の減少等から、今の状態を維持できない可能性が高い。料金の適切性については、今後も検討していく必要がある。
 施設利用率が低く、施設が過大であるように見えるが、1日最大給水量から見ると過大とは言い切れない。今後の使用状況を見守りながら、様々な観点から施設の効率性を考えていく必要がある。

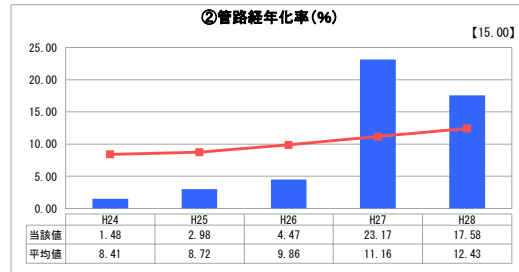
2. 老朽化の状況について

水道事業認可直後である昭和50～51年に布設した配水管を現在も使用しており、それらが40年を経過することから、管路経年比率は急激に高くなっている。
 管路更新率は類似団体と比べて高くなっているため、引き続き、現在見直し中の水道基本計画により管路更新の優先順位を位置づけをすううえで、計画的な管路更新に努める。

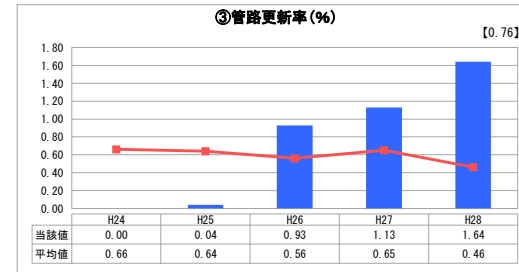
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

全体的に類似団体より良好な状態とは言えるが、人口減少による給水集積の減少、老朽化資産の増加により、経営の健全性、施設の安全性を保持することが年々難しくなっていくことが予測される。類似団体の数字だけにとらわれず、町の中長期計画を基に、健全性、安全性を保てる経営を行っていく。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。